**傍花閣**

渉成園の中心的な建物であり、仏壇が置かれている「園林堂」の真正面に、「傍花閣」が建っている。これは、東本願寺の歴代門首の隠居所であったことに由来しており、「傍花閣」を正門、「園林堂」を本堂とし、寺院の配置をイメージしている。

2階建ての傍花閣は茶室として機能している。客は両脇のベンチで待ち、急な梯子のような階段を上って2階の畳敷きの部屋に招かれ、茶の湯が行われる。畳の部屋の窓は開けることができ、周りの桜の木を眺めながらお茶を楽しむことができる。「傍花閣」とは、「花の傍にある館」という意味で、早咲きから遅咲きまで様々な種類の桜が植えられているため、春になると周囲はピンクや白の色に染まる。